

## 2022年度国公立大志願状況

河合塾

2022/2/24

国公立大の確定志願者数が22日に文部科学省から発表された。総志願者数は428,657人、志願倍率は4.3倍であった。以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

### ■志願者数は前年から約3千2百人増加、国立大に志願者集まる

国公立大一般選抜の総志願者数は428,657人と前年から約3千2百人増加、募集人員に対する志願倍率は前年同様の4.3倍となった（以下、倍率は全て志願倍率）。今年は共通テストの平均点が大きくダウンし、国公立大を諦める受験生が増えることが懸念されたが、積極的に出願できた様子がうかがえた【表1】。

【表1】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員(A)		志願者数(B)				志願倍率(B/A)	
		21年度	22年度	21年度	22年度	前年差	前年比	21年度	22年度
国立大学	前期	63,716	63,637	177,178	179,320	+2,142	101%	2.8	2.8
	後期	13,201	12,962	118,753	123,633	+4,880	104%	9.0	9.5
	計	76,917	76,599	295,931	302,953	+7,022	102%	3.8	4.0
公立大学	前期	16,210	16,320	58,225	54,677	-3,548	94%	3.6	3.4
	後期	3,487	3,367	42,168	39,647	-2,521	94%	12.1	11.8
	中期	2,364	2,349	29,091	31,380	+2,289	108%	12.3	13.4
	計	22,061	22,036	129,484	125,704	-3,780	97%	5.9	5.7
国公立大学計	前期	79,926	79,957	235,403	233,997	-1,406	99%	2.9	2.9
	後期	16,688	16,329	160,921	163,280	+2,359	101%	9.6	10.0
	中期	2,364	2,349	29,091	31,380	+2,289	108%	12.3	13.4
	計	98,978	98,635	425,415	428,657	+3,242	101%	4.3	4.3

※文部科学省資料より

※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学および2022年度新設大は上表には含まれない

国公立大入試の中心となる前期日程の志願者数は、233,997人と概ね前年並みとなった。18歳人口は前年から2万人減少したが、国公立大をめざす受験生は大きく減らず、堅調に志願者を集めた。国立大、公立大で分けてみると、国立大は前年を上回る志願者数だった一方、公立大では前年比94%とやや高い減少率となった。国立大では、旧帝大を中心とする難関国立10大の志願者が1千人増加。難関大に積極的に挑戦しようとする動きがみられ、国立大全体の志願者数を押し上げた。公立大では、共通テストを少数科目で受験可能なケースが多く、難化した共通テスト科目の配点比重が高い大学などでは敬遠された様子がみられた。

後期日程では前年を上回る志願者数となった。共通テストの前身であるセンター試験を例にとると、平均点が大きく下がった年には、募集人員が少なく難易度が高くなりがちの後期日程を諦める受験生が増える傾向にあったが、今年は共通テストの平均点ダウンの状況でも前向きに出願できた受験生が多かった様子がうかがえる。

公立大で実施される中期日程は高い増加率となった。今年新たに中期日程を実施する前橋工科大、三条市立大、新設の大阪公立大（大阪府立大と大阪市立大が統合）などで志願者が集まった影響が大きい。

【表2】は前期日程の地区別の状況である。概ね前年並みとなった地区が多いなか、中国地区では1割以上減少した一方、四国地区では大きく増加した。四国地区では、徳島大、香川大、高知大の3大学で志願者が増加した影響が大きい。

【表2】国公立大(前期日程) 地区別志願状況

地区	21年度	22年度	前年差	前年比
北海道	11,552	11,559	+7	100%
東北	18,381	18,560	+179	101%
北関東	11,829	11,901	+72	101%
南関東	46,734	47,118	+384	101%
甲信越	11,057	10,793	-264	98%
北陸	10,873	10,903	+30	100%
東海	21,467	20,550	-917	96%
近畿	39,520	40,086	+566	101%
中国	22,143	19,759	-2,384	89%
四国	10,373	11,607	+1,234	112%
九州	31,474	31,161	-313	99%

※文部科学省資料より

※北関東:茨城・栃木・群馬 南関東:埼玉・千葉・東京・神奈川

## ■系統別の志願状況

【表3】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。国公立大全体の前期日程の志願者数が前年並みだったことを鑑みて確認していく。

文系では「文・人文」「法・政治」学系が前年並みに留まった一方、「社会・国際」「経済・経営・商」学系の減少率がやや高くなった。

理系では、「理」「工」学系では概ね前年並み、「農」学系では志願者が大きく増加した。医療系では「薬」学系で高い増加率となったほかは、概ね前年並みの志願者数を維持した。

以下に、主な系統について確認していく。なお、文中の志願者数・前年比はとくに記載がない場合、前期日程を表す。

【表3】国公立大(前期日程) 学部系統別志願状況

系統	募集人員 (A)		志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
	20年度	22年度	21年度	22年度	前年差	前年比	21年度	22年度
文・人文	7,081	7,097	20,560	20,473	-87	100%	2.9	2.9
社会・国際	4,016	4,034	12,867	12,261	-606	95%	3.2	3.0
法・政治	4,136	4,141	12,219	12,054	-165	99%	3.0	2.9
経済・経営・商	8,155	8,103	25,154	24,384	-770	97%	3.1	3.0
教育—教員養成課程	7,035	7,034	17,352	16,695	-657	96%	2.5	2.4
教育—総合科学課程	827	840	1,905	2,006	+101	105%	2.3	2.4
理	5,110	5,085	14,002	14,098	+96	101%	2.7	2.8
工	22,613	22,702	64,781	64,085	-696	99%	2.9	2.8
農	5,494	5,516	14,921	15,893	+972	107%	2.7	2.9
医・歯・薬・保健	10,689	10,794	35,133	35,893	+760	102%	3.3	3.3
医	3,603	3,616	14,773	15,087	+314	102%	4.1	4.2
歯	458	453	1,595	1,576	-19	99%	3.5	3.5
薬	825	813	2,851	3,120	+269	109%	3.5	3.8
看護	3,928	4,014	10,423	10,645	+222	102%	2.7	2.7
医療技術・他	1,875	1,898	5,491	5,465	-26	100%	2.9	2.9
生活科学	796	798	2,510	2,410	-100	96%	3.2	3.0
芸術・スポーツ科学	1,551	1,547	6,730	6,847	+117	102%	4.3	4.4
総合・環境・人間・情報	2,406	2,340	7,274	7,455	+181	102%	3.0	3.2

※河合塾調べ(大学発表の数値と文部科学省発表の数値が異なる大学は大学発表値を優先)

※系統の分類は河合塾による

### 【文・人文学系】

系統全体の志願者数は前年並みで、堅調に志願者を集めた。分野別にみると、「心理」分野で志願者が増加した一方、「外国語」分野では前年比96%と減少が目立った。大学別にみると、北海道大(総合入試文系)、神戸大(文)、九州大(文)などの難関大で志願者が増加した。金沢大では、文系一括の志願者が前年比42%と大きく減少した。文系一括は2021年度入試より前期日程での実施となったが、初年度が他の文系学部と比べて高倍率入試だったことから警戒されたようだ。大阪公立大で新設された現代システム科学—心理では、146人(倍率4.9倍)の志願者が集まった。

### 【社会科学系(社会・国際、法・政治、経済・経営・商)】

「社会・国際」系では、他の文系と比べて高い減少率となり、倍率は3.2倍から3.0倍へダウンした。分野別にみると、志願者が減少した分野が目立つなか「国際関係」分野では志願者が増加した。宇都宮大(国際)、東京外国語大(国際社会、国際日本)などで志願者が増加した。東京外国語大は今春より国際日本学部で先行実施していた英語スピーキングテストを全学部に拡大し、受験料も一律値上げしたが、敬遠要因にはならなかったようだ。

「法・政治」系では、系統全体の志願者数は前年並みだが、「法」分野では志願者が増加した一方、「政治・行政」分野では前年比65%と大きく減少した。コロナ禍の就職を意識した動きからか、年間を通して人気系統だった「法」分野では、一橋大、金沢大、大阪大、広島大、九州大など全国の主要大で幅広く増加しており、人気の高さがうかがえる。

「経済・経営・商」学系では、国立大では志願者が増加した一方、公立大では前年から1割以上減少した。国立大では弘前大(人間社会科学—社会経営)、埼玉大(経済)、一橋大(商)、滋賀大(経済)など前年入試の反動で大きく増加した大学が目立った。とくに埼玉大では、国際プログラム枠の志願者が前年比224%と倍増。前年入試の反動に加え、難化した共通テスト数学を課さないことから志願者が集中したものとみる。公立大では、新設の大阪公立大(経済、商)の志願者が前身の大阪市立大と比べて減少した。なかでも経済学部では募集人員が15名増員したものの志願者は3割減となっており、競争緩和が期待できそうだ。

### 【教育学系（教員養成課程、総合科学課程）】

教員養成課程、総合科学課程を合わせた教育学系全体の志願者数は、前年比 97%と減少した。教員養成課程での減少率が高いが、三重大で前年から 500 人近く志願者が減少した影響が大きく、その他の大学では志願者が増加したところもみられる。三重大の教育学部では、近年隔年現象による志願者の増減が著しく、2021 年度入試で志願者が大きく増加した学校—社会科、学校—教育学などを極端に警戒する動きがみられた。2022 年度より金沢大との共同教員養成課程を新設した富山大（教育）では、募集人員 62 名に対し 132 人の志願者が集まった。同じく金沢大（人間社会—学校教育）も、前年の 2 倍近い 187 人の志願者が集まった。

### 【自然科学系（理、工、農）】

前年並みの志願者数を維持した「理」学系では、「数学・数理情報」「物理」分野などで志願者が増加した。大学別にみると、東北大（理）、名古屋大（理）、大阪大（理）などの難関国立大で増加したほか、前年低倍率だった横浜市立大（理）、高知大（理工）などでも大きく増加した。

「工」学系では、系統全体の志願者数は前年並みを維持した。分野別では「機械・航空」分野が前年比 108%と増加したほか、「通信・情報」「生物工・生命工」分野も前年を上回る志願者数となった。一方、「土木・環境」「材料・物質・資源」分野では減少が目立った。なお、「理」「工」学系では、横浜国立大（理工）の志願者数が前年から 7 割以上増加した。2021 年度は新型コロナ感染防止対策として 2 次試験を実施しなかった。志願者は大きく減少し、欠員補充 2 次募集をするなど低倍率入試となった反動から志願者が集中したものとみる。

「農」学系では、高い増加率となり、倍率は「理」「工」学系より高い 2.9 倍に上昇した。「農」学系は近年志願者が減少傾向にあった。今春は、前年入試の反動に加え、SDGs（持続可能な開発目標）の関心の高まりなどから志願者増加に転じたものとみる。「獣医」分野の志願者数も前年比 107%と増加した。大学別にみると、前年低倍率だった岩手大（農）、新潟大（農）、滋賀県立大（環境科学—生物資源管理）などで志願者が大きく増加した。

### 【医療系（医・歯・薬・保健）】

医療系全体の志願者数は、前年比 102%と増加した。コロナ禍を背景に、就職を意識し難関資格に関連深い系統・分野を志望する傾向が強まっている。

「医」では、7 年ぶりに増加に転じた前年を上回る志願者数となり、倍率は 4.2 倍に上昇した。大学別にみると、第 1 段階選抜で共通テストの得点基準を設ける大学を避ける動きがみられた。なかでも、名古屋大では共通テストの得点基準が 700 点（900 点満点）と高く、志願者は大幅に減少。近隣の岐阜大では、志願者は前年から 3 割以上増加し、倍率は 10.4 倍と全国の医学科のなかでも高倍率となった。

「薬」では 2 年連続の志願者増となった。新設 2 年目となる和歌山県立医科大では、前年を大きく上回る志願者数となり、倍率は 2.6 倍から 4.6 倍へと大幅に上昇した。また、金沢大（医薬保健—薬・医薬科学）も志願者は大きく増加。なかでも、前年低倍率だった医薬科学では志願者が倍増した。

### 【その他】

「総合・環境・人間・情報」の志願者は前年比 102%と増加した。「総合」分野で大きく増加、「情報」分野でも前年を上回る志願者が集まった。「総合」分野では、前年入試で低倍率だった広島大（総合科学—総合科学文科系）、徳島大（社会総合科学）などで志願者が大きく増加した。「情報」分野では、名古屋大（情報）、広島大（情報科学）などの難関大では志願者が減少し敬遠された様子が見られたが、愛知県立大（情報科学）、長崎県立大（情報システム）などの公立大では志願者が増加した。また、2020 年度新設の福知山公立大（情報）の志願者数が前年から 5 割以上増加し、設立以来最多の志願者数となった。

## ■難関国立大の志願状況

【表4】は旧帝大を中心とした難関10大学の志願状況を前期日程・後期日程でまとめたものである。

難関10大学全体では、前期日程の志願者数は55,962人（前年比102%）と増加した。大学別にみると、10大学中6大学で前年を上回る志願者数となり、なかでも北海道大、大阪大などでは高い増加率となった。共通テストの平均点が大きく下がったなかで、今年の受験生が積極的に難関大に挑戦

した様子が見られる。ただし、難関10大学のなかで前年低倍率となった学部・学科などに志願者が集まる動きもみられた。以下、難関10大学の状況を個別にみていく。

【表4】国立難関10大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	21年度	22年度	前年差	前年比	21年度	22年度	前年差	前年比
北海道	5,104	5,409	+305	106%	3,517	4,107	+590	117%
東北	4,499	4,392	-107	98%	1,251	1,332	+81	106%
東京	9,089	9,507	+418	105%	—	—	—	—
東京工業	3,638	3,802	+164	105%	—	—	—	—
一橋	2,564	2,588	+24	101%	1036	1244	+208	120%
名古屋	4,581	4,339	-242	95%	54	38	-16	70%
京都	7,045	7,210	+165	102%	379	360	-19	95%
大阪	6,991	7,501	+510	107%	—	—	—	—
神戸	6,194	6,071	-123	98%	4,042	4,052	+10	100%
九州	5,175	5,143	-32	99%	2,454	2,549	+95	104%
難関10計	54,880	55,962	+1,082	102%	12,733	13,682	+949	107%
その他大計	180,523	178,035	-2,488	99%	148,188	149,598	+1,410	101%

※文部科学省資料より  
 ※「その他大計」は難関10大を除いた国公立大計

### 【北海道大学】

前期日程の志願者数は前年比106%と増加した。学部別にみると、前年入試の反動による増減がみられ、前年志願者が増加していた教育、法学部では志願者が減少した一方、前年志願者が減少していた理系学部などでは志願者が増加した。今春は、総合型選抜の拡充にともない、一般選抜の募集人員が減員された。33名の募集人員減となる総合理系では、志願者数は増加しており倍率は上昇、前年と比べて厳しい入試となりそう。なお、総合型選抜に欠員が出ており、一部の学部・学科では一般選抜で募集人員増となった。

後期日程では、志願者が前年から1割以上増加した。今春から医学部保健学科の後期日程が廃止されており、後期日程を実施する学部・学科のみで比較すると2割増となった。とくに、理学部（生物科学-生物）、農、獣医、水産などでは高い増加率となった。

### 【東北大学】

前期日程の志願者数は、前年比98%と微減となった。学部別にみると、文、理、医の3学部で志願者が増加した。なかでも医学部（保健一看護学）は前年比147%と大幅増。前年入試で志願者が減少し低倍率入試となった反動によるものとみる。歯学部は志願者が大きく減少（前年比65%）。過去2年の入試で志願者減少が続いたが、今春入試でも歯止めはかからなかった。後期日程では、理学部で志願者が前年から1割以上増加した一方、経済学部は微減となった（前年比98%）。経済学部では、前年高倍率だった理系型で敬遠された様子が見られる。

### 【東京大学】

大学全体の志願者数は前年比105%と4年ぶりに増加した。科類別にみると、理科一類を除き前年を上回る志願者が集まった。文科類では、文科二類が前年比107%と最も高い増加率となった。理科類では、理科二類で志願者が前年から1割以上増加した。理科二類では前年入試の合格者最低点が理科一類と比べて低かったことから、志願者が集まったようだ。共通テスト平均点ダウンの影響を感じさせない堅調な動向となったが、大学公表の第1段階選抜合格者の平均得点をみると昨年に比べ60点以上ダウンした科類もみられ、東京大志願者でも共通テストに苦戦した様子が見られる。

### 【東京工業大学】

大学全体の志願者数は前年比105%と増加した。学院別にみても、全学院で前年を上回る志願者が集まった。なかでも、工、物質理工学院（ともに前年比106%）、環境・社会理工学院（前年比113%）では高い増加率と

なった。倍率をみると、情報理工学院が9.0倍と最も高く、次いで理学院、工学院と前年入試から序列に変化はなかった。今年の共通テスト平均点の大幅ダウンにより、共通テストを合否判定に用いず第1段階選抜のみに利用する東京工業大に志願者が集まったものとみるが、全学院をあわせて募集人員の4倍を上回る志願者数となったため、2段階選抜が実施された。

### 【一橋大学】

前期日程の志願者数は前年並みとなった。学部別でみると経済学部で大きく減少（前年比68%）したが、他の3学部では志願者は増加した。なかでも商学部は前年から2割以上増加した。2年連続で志願者が減少したことに加え、2020年・21年度入試では第1段階選抜が実施されなかったことから志願者が集まったようだ。経済学部で実施する後期日程は、前年比120%と大きく増加し、他の難関国立大と同様に後期日程まで積極的にチャレンジした様子が見える。

### 【名古屋大学】

前期日程の志願者数は前年比95%と、難関国立10大学のなかでは高い減少率となった。法、経済、理、農学部などでは前年から1割以上志願者が増加した。農学部では、今春から2次試験で国語を課すが、入試科目の負担増の影響を感じさせない堅調な動向となった。一方、工、医学部では大幅に減少した。なかでも、医学部では、医学科の志願者が前年から半減した。医学科は前述したように共通テストの得点基準が高く、出願できなかった受験生が多かったようだ。人気分野である情報学部も前年比70%と大きく減少した。とくに前年高倍率だった自然情報、人間・社会情報の2学科では減少率が高く、警戒された様子が見える。

### 【京都大学】

前期日程の志願者数は102%と増加した。2013年度入試以降、志願者減少が続いてきたが、9年ぶりに増加に転じた。学部別にみると、経済、理、総合人間では高い減少率になった一方、教育、工、農、薬学部では志願者が大きく増加した。とくに薬学部は2割増と大幅に増加。全国的な薬学部人気が見られるが、京都大にも果敢に挑戦している様子が見える。工学部も前年から1割以上増加した。平均点が下がった共通テスト数学と理科を合否判定に利用しないことから、志願者が集まったようだ。倍率を学科別にみると、情報学科が4.6倍と最も高く、次いで建築学科3.7倍と続く。最も低いのは工業化学科（1.4倍）で、前年入試以上に学科間の差が大きくなった。

### 【大阪大学】

大学全体の志願者数は前年比107%と増加。過去3年志願者減少が続き、とくに2021年度入試では大きく減少していたが、今春は2020年度入試を上回る志願者数まで回復した。学部別にみると、法、経済、医、薬学部では前年から2割以上志願者が増加した。とくに法学部は前年比128%と高い増加率となった。全国的な法学系人気に加え、過去2年の入試で低倍率だったことが出願を後押ししたようだ。医学部では医学科、保健学科とも志願者が増加した。医学科は第1段階選抜で共通テストの得点基準（900点満点中630点）を設けているが、共通テスト難化の影響を感じさせない動向となった。理系学部にも目を向けると、工学部では志願者が増加、基礎工学部では減少する結果となった。近年2学部間では志願者の増減を繰り返す隔年現象が続いており、基礎工学部は減少年にあたる。人気系統である情報科学科では依然として3倍を超える志願者数となったものの、他の3学科では2倍を下回っており、今年は競争緩和が期待できそうである。

### 【神戸大学】

前期日程の志願者数は前年比98%と微減となった。学部別にみると、文学部では前年比158%と大きく増加した。前年入試で志願者が減少した反動によるものとみるが、2020年度入試を上回る志願者数となり、厳しい入試となりそうだ。2021年度に改組した海洋政策科学部では、理系型で志願者が増加（前年比105%）した一方、文系型では前年の164人から63人まで大きく減少した。前年改組1年目で志願者が集まり高倍率となったため、敬遠されたようだ。

後期日程は前年並みの志願者数となったが、理、工学部では堅調に志願者を集めた。なかでも工学部は前年比111%と大きく増加。なかでも市民工学科では前年から5割以上増加した。前年入試で志願者が減少したことに加え、他学科と比べて共通テスト数学の比重が低いことから出願しやすかったようだ。

### 【九州大学】

前期日程では、概ね前年並みの志願者数を集めた。教育、理学部では前年から2割以上減少したが、文、農

学部などでは1割以上増加した。経済学部では、学部全体の志願者数は前年比97%と減少したが、経済工学科の志願者減によるもので、経済・経営学科では前年から2割以上増加した。共通テストの数学の配点比重が450点満点中50点と低いことも志願者増の要因と考える。人気分野である薬学部の志願者は微減となったが、学科により状況が異なり、創薬科学科では3年連続の志願者増となった。臨床薬学科は、前年高倍率となったことから、警戒されたようだ。

後期日程では、法、経済、工学部で志願者が増加した。とくに法学部では前年比126%と高い増加率となった。近年、募集人員に対する倍率は8倍台で推移してきたが、今春は10倍を超えた。

大学別の国公立大の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net (※) にて閲覧が可能となっているのでご利用いただきたい。

※Kei-Net 国公立大出願状況 : <https://www.keinet.ne.jp/exam/entry/index.html>